

Q 9 : 学校支援ボランティアを受け入れる際、具体的にどのような形態や場面が考えられるか。

A : 学校支援ボランティアには、【学校主導型】や【ボランティア提案型】などがある。学校支援ボランティアの活動によって、子どもたちはもちろんのこと、学校全体、地域が活性化し、自己教育力が向上することが期待できる。地域の教育力が高まることは、学校教育にとって大きな支えとなる。

【学校主導型】 (地域人材活用)

ボランティアを必要とする活動において、保護者や地域の人々に学習の補助や引率などを願うような形態。

[具体的事例]

- * 総合的な学習の時間に、グループごとに地域探検に出かける際の引率。
- * 生活科等の時間における農作物栽培の苗植えや種まきの指導。
- * 国語科における書写の指導。
- * 音楽科における楽器の指導。
- * 社会科などにおける戦争体験談の講師。

【ボランティア提案型】 (学校とボランティアの協働)

ボランティアが自らの得意分野に関して、活動内容を提案したり、さらには自ら指導案などを作成し、主体的に活動するような形態。

[具体的事例]

- * 料理の得意な保護者が集まり、月に数回活動。その成果を発揮する場として、小学校の家庭クラブなどにおいて指導。
- * さつまいもの苗植えの指導をするため、活動案を作成し、学校と相談の上、指導。得意な絵画の指導をしたく、学校に相談。その後、指導



メリット

- ・ 教員が主体的に進めるため、打合せなどが少なく、授業のねらいに沿った活動が展開できる。
- ・ お願いしたい活動のみであるため、新たに計画を立てる必要がない。
- ・ 新たな取組として導入しやすい。



メリット

- ・ ボランティアの自発性、主体性が確保されボランティア自らの学習の場として活動することができる。
- ・ ボランティア自身が成長することにより、活動の発展が期待できる。
- ・ 地域全体で子どもを育てる雰囲気が醸成できる。

* 【ボランティア提案型】は、学校支援ボランティアにおける理想型であり、【学校主導型】から始まり、徐々に移行していくことが望まれる。

栃木県内のある小学校における学校支援ボランティアがスムーズに活動している秘訣

秘訣 1 「先生方とボランティアが互いに提案し、歩み寄ろうという努力」

* 学習ボランティアは先生方の忙しさを知り、話し合いのもと、先生方と一緒に教材作りをしている。しかも、その活動を楽しんでいる。

秘訣 2 「基本的にボランティアの主体性を大切にす姿勢」

* 学校からのお願いもするが、ボランティアの創意工夫を尊重し、細かい部分は任せてしまう。

秘訣 3 「コーディネーターとなる人がいる」

* ボランティアの気持ちを理解するとともに、先生方のニーズも把握し、双方の考えをつなぐコーディネーターとなる人(先生やボランティア)がいる。

秘訣 4 「ボランティアがサークル活動へ」

* ボランティアルームがにぎやかで、お茶を飲みながら活動をしている。これがボランティアの楽しみであり、地域づくりへと発展する可能性がある。

